

KONAN UNIVERSITY

中島俊郎教授略歴および研究業績一覧

雑誌名	甲南大學紀要．文学編
号	168
ページ	29-35
発行年	2018-03-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1260/00003035/

中島俊郎教授 略歴

学 歴

昭和48年3月	甲南大学 文学部英文学科	卒業
昭和50年3月	甲南大学大学院 人文科学研究科英文学専攻修士課程	修了
昭和53年3月	甲南大学大学院 人文科学研究科英文学専攻博士後期課程	単位取得退学

甲南学園における主な経歴

昭和55年4月	甲南大学 講師	(昭和60年3月まで)
昭和60年4月	甲南大学 助教授	(平成5年3月まで)
平成5年4月	甲南大学 教授	(現在に至る)

甲南学園における主な役職など

昭和61年10月	甲南大学 事務局参与	(平成2年5月まで)
平成12年4月	甲南大学 文学部英語英米文学科主任	(平成14年3月まで)
平成15年4月	甲南大学 文学部英語英米文学科主任	(平成17年3月まで)
平成21年4月	甲南大学大学院 人文科学研究科英語英米文学専攻主任	(平成23年3月まで)
平成26年4月	甲南大学大学院 人文科学研究科英語英米文学専攻主任	(平成28年3月まで)

甲南学園における主な委員・会議員など

伊藤忠兵衛基金出版助成委員会
 学長候補者選挙管理委員会
 広域副専攻センター運営委員会
 合同教授会
 甲南大学と甲南高等学校・中学校との協議会
 広報編集委員会
 国際交流センター
 図書館商議員会
 大学院委員会
 共通教育センター代表専門委員会
 公開講座委員会
 「甲南—イリノイ夏期英語講座」実施委員会
 甲南大学とトゥレーヌ甲南学園高等部との協議会
 国際交流助成運営委員会
 自己点検評価・研究活動実施委員会

中島俊郎教授 研究業績一覧

著 書

- 2005年 『ビートン夫人のヴィクトリア朝婦人生活画報』(Eureka Press)
 2007年 『イギリス的風景—教養の旅から感性の旅へ—』(NTT 出版)
 2007年 『イギリス＝イタリア交流史の一側面』(Eureka Press)
 2008年 『英米におけるマリオ・ブラーツ受容』(Eureka Press)
 2011年 『オックスフォード古書修行—書物が語るイギリス文化史』(NTT 出版)
 2013年 『ヴィクトリア朝時代の湖水地方ガイドブック』(Eureka Press)
 2015年 『岡本 わが町』(共編著, 神戸新聞総合出版センター)

論 文

- 1977年 「心象の生成—*The Waves* 序論」 *Perspective* 第5号
 1979年 「*Jacob's Room* の構造」 *Perspective* 第6号
 1980年 「*The Mark on the Wall* の手法」 *Perspective* 第7号
 1982年 「*The Years* の二重構造」『甲南大学紀要文学編41』
 1983年 「劇としての *Between the Acts*」『甲南大学紀要文学編45』
 1984年 「*Between the Acts* の断片性」『甲南大学紀要文学編49』
 1985年 「Virginia Woolf の庭」『甲南大学紀要文学編53』
 1986年 「*To the Lighthouse* のインターテキスト」『甲南大学紀要文学編57』
 1987年 「“Clay” の構造分析」『甲南大学紀要文学編61』
 1988年 「楳田の世界—ハーディ『帰郷』」松村昌家編『ヴィクトリア朝小説のヒロインたち—愛と自我』創元社
 1990年 「*Mr Bennett and Mrs Brown* のインターテキスト」『甲南大学紀要文学編73』
 1991年 「沈黙の意味—『バネッサ・ベル近作展』に寄せた V. ウルフの序文」『甲南大学紀要文学編77』
 1992年 「歴史に声を聞く—V. ウルフ『ジョアン・マーティンの日記』」『甲南大学紀要文学編81』
 1992年 「事実と想像—V. ウルフ『J. M. キャメロン夫人伝』」『英語・英米学研究の新潮流』金星堂
 1992年 「V. ウルフ『フレッシュウォーター』について」『フレッシュウォーター』こびあん書房
 1994年 「キャロル文学と挿絵」定松正編『ルイス・キャロル小事典』研究社
 1997年 “The Art of Photography” *Julia Margaret Cameron Newsletter*, No. 17 Cameron Museum
 1998年 “A. Thakeray Ritchie's Reminiscences” *Julia Margaret Cameron Newsletter*, No. 19 Cameron Museum
 2000年 “*Father and Son as Historiography*”『ヴィクトリア朝の社会と文学』『甲南大学総合研究所叢書60』
 2000年 「暗喩としての博物学—エドモンド・ゴス『父と子』」『甲南大学紀要文学編108』
 2001年 「キース・トマスの方法」キース・トマス, 中島俊郎編訳『歴史と文学—近代イギリス史論集』みすず書房
 2002年 “Literature and Photography: Intertextuality in the Texts of Lewis Carroll and Cuthbert Bede”『甲南大学紀要文学編120』
 2003年 “Reading Lewis Carroll's Alice Liddell as ‘*The Beggar Maid*’”『甲南大学紀要文学編125』
 2004年 “The Late-Victorian Controversy: Edmund Gosse and John Churton Collins”『甲南大学紀要文学編130』

- 2004年 “L’imagination et le diptyque chez Lewis Carroll” Sophie Marret, Lawrence Gasquet et Pascale Renaud-Grosbras, *Lewis Carroll et les mythologie de l’enfance*, Universites des Rennes
- 2004年 「ミッシヨナリーとしてのラジャー・ブルック」『日本研究 第30集』国際日本文化研究センター
- 2004年 ポール・ヴァレリー, 中井久夫訳「わが若き日の英国」『みすず』第517号
- 2005年 「19世紀初頭ロンドン・イギリス漫遊探訪記」Masaie Matsumura, *Tour, Adventure and Rambles in England: A Collection of the Early 19th Century Sources*, Eureka Press
- 2005年 「表象としてのジェームズ・ブルック」『甲南大学紀要文学編135』
- 2006年 「ペDESTリアニズムの諸相—18世紀末ツーリズムの一断片」『甲南大学紀要文学編140』
- 2006年 「ピクチャレスクツアーの形成」『道徳と科学のインターフェース』『甲南大学総合研究所叢書86』
- 2007年 「旅文化としてのグランドツアー」『甲南大学紀要文学編145』
- 2008年 「明治のホームズ—今井信之『英文小説講義』」『明治日本とイギリス』『甲南大学総合研究所叢書95』
- 2008年 「独学者と読書—リチャード・オールティック『イギリスの一般読者』」『甲南大学紀要文学編150』
- 2009年 「スコットランド啓蒙思想史の側面」『道徳哲学の現在—社会と倫理』『甲南大学総合研究所叢書100』
- 2009年 「A. B. ミットフォード」A. B. Mitford’s *Tales of Old Japan* 大阪教育図書
- 2011年 「ニセ海亀の文化誌—ルイス・キャロルの想像力」『法政大学 経済志林78』
- 2012年 「ある英文学者の肖像—壽岳文章—」『甲南大学紀要文学編162』
- 2013年 「湖水地方の詩学—ガイドブックを中心に—」『甲南大学紀要文学編163』
- 2013年 「文化の基層をもとめて—A. B. ミットフォード」松村昌家編『日本とヴィクトリア朝英国—交流のかたち—』大阪教育図書
- 2013年 「ルイス・キャロルの英国」安井泉編『ルイス・キャロル ハンドブック』七つ森書館
- 2013年 「ある英文学者の肖像—壽岳文章— (追補)」『平生夙三郎におけるイギリス的伝統』『甲南大学総合研究所叢書117』
- 2014年 「ウォーキングの文化史—イギリス人はいかに歩き, 何をうみだしたのか—」『甲南大学紀要文学編164』
- 2015年 「比較文学の実践—佐藤清のアイランドと京城」『甲南英文学30号』
- 2015年 「ウォルター・ペイターとヴィクトリア朝ジャーナリズム」『ペイター論集第6号』日本ペイター協会
- 2015年 「ピクトリアリズムの展開—『芸術写真研究』を軸として—」『甲南大学紀要文学編165』
- 2015年 「平生夙三郎とパブリック・スクール」安西敏三編『現代日本と平生夙三郎』晃洋書房
- 2016年 「六甲山のウォーキング—神戸徒歩会の活動を主軸に—」『甲南大学紀要文学編166』
- 2017年 「漱石とヘルプス」『甲南大学紀要文学編167』
- 2018年 「文化遺産としての向日庵」『甲南リベラリズムの源流を求めて』『甲南大学総合研究所叢書132』
- 2018年 「文学をいかに教えるか—『暗い日曜日』の解釈をめぐる—」『甲南大学紀要文学編168』
- 2018年 「文学の講義—『泥の河』を主軸として—」『甲南大学教育学習支援センター紀要第3号』

研究発表および講演

- 1980年 「*The Years* の二重構造」日本英文学会 第33回九州大会, 鹿児島大学
- 1985年 「テキスト・語り・読み手—*Between the Acts* をめぐって」日本 V. ウルフ協会第36回例会, 関西大学
- 1985年 シンポジウム「*To the Lighthouse* をめぐって」日本 V. ウルフ協会第5回全国大会, 帝塚山学院大学
- 1986年 「テキストとしての *The Years*」日本英文学会第58回全国大会, 関西学院大学
- 1987年 シンポジウム「*The Waves* をめぐって」日本 V. ウルフ協会第7回全国大会, 関西大学
- 1987年 「後期印象派と Virginia Woolf」日本比較文学会第3回西日本大会, 甲南女子大学
- 1987年 「不思議の国のテニエル」日本比較文学会第4回西日本大会, 桃山学院大学
- 1990年 「『フレッシュウォーター』—インターテキストとしてのワイト島—」日本 V. ウルフ協会第11回全国

- 大会, 香川大学
- 1991年 「ふたりのロザモンド—V. ウルフの処女作について—」 日本 V. ウルフ協会第12回全国大会, 津田塾大学
- 1991年 “Text Production” Making/Marking the Text: The Presentation of Meaning on the Literary Page: An International Conference, Trinity College, Cambridge University
- 1997年 「日本文学に現れた〈黒髪〉の美意識」 日本理容協会, ホテルオークラ神戸
- 1998年 “A History of the British Walking Movement,” The Japan Society of Oxford
- 2000年 「キャロル伝の真実—事実とフィクションのはざま」 日本ルイス・キャロル協会月例会, 昭和女子大学
- 2001年 “Urbane Space” *A Walk on the Wild*: Nelson Algren, An International Symposium, University of Leeds
- 2001年 「ルイス・キャロルとカスパート・ビード」 日本ルイス・キャロル協会第7回研究大会, 法政大学
- 2001年 “Colonialism and Post-colonialism in R. L. Stevenson’s Samoa” Stevenson, Scotland and Samoa: An International Conference, University of Stirling
- 2002年 「合成写真の詩学—ルイス・キャロルと H. P. ロビンソン—」 日本ルイス・キャロル協会月例会, 法政大学
- 2002年 「ルイス・キャロル『乞食娘』を読む」 日本ルイス・キャロル協会第8回全国大会, 昭和女子大学
- 2003年 “Iconic Deconstruction in Ezra Pound: Meaning and Sound in *The Cantos*” Iconicity in Language and Literature: The 4th International Conference, Université Catholique de Louvain
- 2003年 “The Diptych-like Imagination in Lewis Carroll” Lewis Carroll et les mythologies de L’enfance: Colloqué International Lewis Carroll Conference, Université de Rennes II
- 2003年 「中世の国のアリス—topsy-turvyの世界—」 日本ルイス・キャロル協会第9回全国大会, 甲南大学
- 2003年 「創造説と進化論—エドモンド・ゴス『父と子』」 日本ヴィクトリア朝文化研究学会第3回全国大会, 駒澤大学
- 2003年 「イギリスの庭園 I, II」 兵庫連携講座, 神戸交通センター
- 2004年 シンポジウム「日本におけるアリスの受容史—さまざまなメディアをとおして—」 日本ルイス・キャロル協会第10回研究大会, 昭和女子大学
- 2004年 “Omega Workshop” Back to Bloomsbury, the 14th International Conference on Virginia Woolf, University of London
- 2005年 「ペDESTリアリズム」 日本比較文学会第40回関西大会, 甲南大学
- 2005年 「不思議の国のビートン夫人—ヴィクトリア朝の女性教育—」 日本ルイス・キャロル協会月例会, 法政大学
- 2006年 「イギリス18世紀の旅文化の諸相」 甲南大学公開講座『旅のクロスロード』, 甲南大学
- 2006年 “Photography in *To the Lighthouse*” Woolfian Boundaries, the 16th Annual International Conference on Virginia Woolf, University of Birmingham
- 2007年 「英国のツーリズム」 日本シャーロック・ホームズ・クラブ, ホームズ120周年びわ湖記念大会, 長浜ロイヤルホテル
- 2009年 「ウォーキングの文化史—イギリス人はいかに歩き, 何を生み出したか」 甲南大学総合研究所, 第48回公開講演会, 甲南大学
- 2009年 「イギリス留学断—大学, 古書, ルイス・キャロル」 海文堂ギャラリー
- 2009年 「ウォーキングとイギリス文化」 甲南大学連携講座
- 2012年 「イギリスの出版と読書」 大学共同講座, 西宮市大学交流センター
- 2012年 「イギリスのウォーキング」 大学共同講座, 西宮市大学交流センター
- 2012年 「オックスフォード古書事情」 国際稀購書展, 京都勸業館
- 2012年 「イギリス文学の研究」 同志社女子大学英文学会, 同志社大学

- 2012年 「オックスフォードの古書」 グロリアクラブ, 雄松堂書店本社
- 2013年 「ウォルター・ペイターとヴィクトリア朝ジャーナリズム」 日本ペイター協会第52回全国大会, 武庫川女子大学
- 2014年 「イギリスの絵葉書」 関西絵葉書研究会, 大阪古書会館
- 2015年 「地域史を編む」『岡本 わが町』出版記念会, 岡本公会堂
- 2016年 「ジョージ・エリオットと『ウェストミンスター・レビュー』」 日本ジョージ・エリオット協会, 大谷大学
- 2016年 「イギリスのウォーキング」 大阪西ロータリークラブ, ヒルトン・ホテル
- 2016年 「岡本の地域史と住民史」 甲南大学公開講座『わがまち再発見』, 甲南大学
- 2016年 「神戸開港150周年―旅のクロスロード―」 阪神文化交遊会, 竹園ホテル
- 2016年 「壽岳文章・しづが問いかけたこと」 壽岳文章一家の文化的業績についての調査研究会, 長岡京市中央公民館
- 2016年 「文学をどう教えるか」 日本比較文学会第78回全国大会, 東京大学
- 2017年 “Humpty-Dumpty for Meanings; the Japanese Translation of the *Alice* Books” The 1st Congress on Translation Studies, Paris West University Nanterre-La Défense
- 2017年 「文化遺産としての向日庵―過去を見つめ, 未来を見する『開かれた場』―」 NPO「向日庵」設立記念講演会, 西向日コミュニティセンター
- 2017年 「ホームズとビートン夫人」 日本シャーロック・ホームズクラブ関西支部第230回関西例会, 大阪難波市民学習センター
- 2017年 「壽岳文章と甲南学園歌」 甲南大学同窓会設立60周年記念, 北摂甲南会, みのお山荘 風の杜
- 2017年 (講演)「ヴィクトリア朝のウォーキング―登山, 散策, 文学―」 日本ヴィクトリア朝文化研究会第17回全国大会, 関西学院大学

翻 訳

- 1989年 キース・トマス『人間と自然界―近代イギリスにおける自然観の変遷』(共訳, 法政大学出版局)
- 1992年 ヴァージニア・ウルフ『フレッシュウォーター』(こびあん書房)
- 2001年 キース・トマス『歴史と文学―近代イギリス史論集』(みすず書房)
- 2004年 Lydle Valcke, *The Art of Wrapping* (Iannoo/Terra, Belgium)
- 2013年 ルーシー・ワースリー『暮らしのイギリス史―王侯から庶民まで―』(共訳, NTT 出版)
- 2016年 ルーシー・ワースリー『イギリス風殺人事件の愉しみ方』(共訳, NTT 出版)

翻 刻

- 2005年 Toshiro Nakajima ed., *The Englishwoman's Domestic Magazine 1852-56*, 4 vols. (Eureka Press)
解説書『ビートン夫人の英国婦人生活画報』
- 2007年― Toshiro Nakajima ed., Mario Praz, *English Miscellany: A Symposium of Literature, History and Arts*, 10 vols.
2008年 (Eureka Press)
解説書『イギリス - イタリア交流史の側面』, 解説書『英米におけるマリオ・プラッツ受容』
- 2013年 Toshiro Nakajima ed, *Lake District Tours in the Victorian Age 1842-1902*, 5 vols. (Eureka Press)
解説書『ヴィクトリア朝時代の湖水地方ガイドブック』

書 評

- 1984年 Virginia Woolf, *Pointz Hall: The Earlier and Later Typescripts of Between the Acts*, Edited, With an Introduction, Annotations, and Afterword by Mitchell A. Leaska, New York University Press. 『ヴァージニア・ウルフ研究』 創刊号
- 2009年 河村民部『詩から小説へーワーズワスとロマン派の末裔』（英宝社）, 『ヴィクトリア朝文化研究』 第7号
- 2010年 K. Leach, *In the Shadow of the Dreamchild: The Myth and Reality of Lewis Carroll* (Peter Owen, 2009), *The Looking-glass Letter*, No. 107
- 2010年 中井久夫『私の日本語雑記』（岩波書店）, 『神戸新聞』
- 2012年 ニコラ・ハンプル『ケーキの歴史物語』（原書房）, 『北海道新聞』
- 2012年 Haia Shpayer-Makov, *The Ascent of the Detective: Police Sleuths in Victorian and Edwardian England* (Oxford University Press), 『ヴィクトリア朝文化研究』 第10号
- 2013年 Rosemary Ashton, *Victorian Bloomsbury* (Yale University Press) 『ヴィクトリア朝文化研究』 第11号
- 2014年 鈴木暁世『越境する想像力ー日本近代文学とアイルランド』（大阪大学出版会）, 『比較文学』 第57号
- 2014年 エレン・F・ブラウン他「世紀の名作はこうしてつくられた」『神戸新聞』
- 2014年 Alison Byerly, *Are we There? Virtual Travel and Victorian Realism* (The University of Michigan Press), 『ヴィクトリア朝文化研究』 第12号
- 2015年 「ヴィクトリア朝文化研究の一指針」『ヴィクトリア朝文化研究』 第14号
- 2015年 C. C. R. ジェームズ, 本橋哲也訳『境界を超えて』（月曜社）, 『北海道新聞』
- 2017年 川端康雄『ウィリアム・モリスの遺したものーデザイン・社会主義・手しごと・文学』（岩波書店）, 『ヴィクトリア朝文化研究』 第15号

教科書

- Claude Lévi-Strauss, *Myth and Meaning* (共編注, こびあん書房)
- Toshiro Nakajima, *History of Literature in English* (Press Okamoto)
- Algernon Bertram Mitford, *Tales of Old Japan* (1871) (共編注, 大阪教育図書)

随想, 雑編

- 1980年 「マラルメ詩集」『一書懸命』 胡蝶の会
- 2006年 「黒木書店」 林哲夫編『神戸の古本力』 みずのわ出版
- 2007年 「翻訳をめぐる意味と無意味をめぐって」 *spin* 第2号
- 2008年 「オックスフォード古書修行」 *spin* 第4号
- 2008年 「本のある街角から」『ほんまに』 第7号
- 2008年 「本のある街角から」『ほんまに』 第8号
- 2009年 “Christmas at Queen’s Square,” *The Looking-glass Letter*, No. 102
- 2009年 「本のある街角から」『ほんまに』 第9号
- 2009年 「本のある街角から」『ほんまに』 第10号
- 2010年 「本のある街角から」『ほんまに』 第11号
- 2010年 「歩く権利」「今井信之『英文小説講義』」「『最後の事件』とアルピニズム」「ビートン・クリスマス・アニヴァーサリー」『シャーロック・ホームズ事典』（青弓社）

- 2010年 「オックスフォード古本修行—テニエルの『アリス物語』挿絵」『雄松堂ネットピヌス』
- 2010年 「本のある街角から」『ほんまに』第12号
- 2011年 「オックスフォード古本修行」『雄松堂ネットピヌス』
- 2011年 「故・黒岩比佐子さんと古書」『神戸新聞』
- 2012年 「神戸の名店」『あまから手帖』5月号
- 2012年 「成田一徹さんを悼む」『神戸新聞』
- 2012年 「この人、この本」『東京新聞』、『中日新聞』
- 2012年 「谷本泰三先生を悼む」『甲南英文学』第27号
- 2013年 「美しい英国」『オックスフォード古本修業』（第7回）『雄松堂ネットピヌス』第84号
- 2013年 「フィリップ・ゴス書誌」『オックスフォード古本修業』（第8回）『雄松堂ネットピヌス』
- 2013年 “In Memory of Professor David Rycroft”『甲南大学紀要文学編163』
- 2013年 「乱読のすすめ」『藤棚』第30号，甲南大学図書館
- 2013年 「成田一徹の切り絵—その美意識について—」『あまから手帖』
- 2013年 「本のある街角から ブルージュから」『ほんまに』第13号
- 2014年 「ワイト島の文化史」『オックスフォード古本修業』（第9回）『雄松堂ネットピヌス』第85号
- 2014年 「デミソースの来た道」『あまから手帖』3月号
- 2014年 「本のある街角から」『ほんまに』第14号
- 2014年 「海文堂との半世紀」『ほんまに』第15号
- 2014年 「自転車ブーム」，「養蜂家ホームズ」『ホームズおもしろ事典』青弓社
- 2014年 「ビートン夫人に魅せられて」『ほんまに』第16号
- 2015年 「コブデン＝サンダースン」『オックスフォード古本修業』（第10回）『雄松堂ネットピヌス』第86号
- 2015年 「活字のごちそう—陳舜臣と光村利藻」『ほんまに』第17号
- 2015年 「神戸のパサージュ」『あまから手帖』3月号
- 2015年 “Rev. Weston and the Japanese Alps”『ウェストンと歩く日本アルプス』（里文出版）
- 2015年 「『不思議の国のアリス』から『大博物学時代』へ」『続・次の本へ』（苦楽堂）
- 2016年 「なぜラグビーの父は神戸に眠っているのか？」『神戸新聞』
- 2016年 「谷崎潤一郎，阪神間を食す」『あまから手帖』6月号
- 2016年 「戦争と一粒のアメ」『ほんまに』第18号
- 2017年 「詩作と歩行—ワーズワスとウォーキング」『時間割』創刊号
- 2017年 「神戸港開港150周年—文化の三幅対—」阪神文化交遊会『阪神間から伝えたい人，町，文化』（神戸新聞総合出版センター）
- 2017年 「私の神戸ハイライト」『あまから手帖』7月号
- 2017年 「ディケンズとウォーキング」『時刻表』第2号
- 2018年 「グルメガイドの誕生」『ほんまに』第19号
- 2018年 「阪神間モダニズム：六甲山のウォーキング」Kiss Press，3月号，兵庫県地域創世局創生課
- 2018年 「エドワード・トマスとウォーキング」『時刻表』第3号

所属学会および社会活動

日本比較文学会，日本ヴィクトリア朝文化研究会，日本ルイス・キャロル協会，甲南英文学会，特定非営利活動法人「向日庵」